

# 扶桑町 水害対応 ガイドブック [Q&A]

## Q1 そもそも扶桑町には水害の危険性はあるのですか？

木曾川堤防ができる江戸時代ごろまでは、扶桑町でも木曾川堤防が決壊したり溢れたりして幾多もの浸水被害が生じていました。現在においても、想定を超えた豪雨が降った場合には、木曾川堤防が決壊したり溢れたりする可能性は依然として存在しています。とりわけ近年では、「ゲリラ豪雨」の発生回数が増加するなどのように、地球温暖化にともなう気象条件の変化が著しく、扶桑町における水害の可能性はゼロとは言えない状況にあります。

■扶桑町の水害危険性の概要については [\[4～5ページ\]](#) を参照ください。

## Q2 それぞれの地域にどのような水害の危険性があるのですか？

扶桑町には大別して「木曾川の洪水による浸水が想定されるエリア」、「新郷瀬川の洪水による浸水が想定されるエリア」、「内水はん濫（町域に降った雨がたまることで生じる浸水）による浸水が想定されるエリア」の3種類のエリアが存在します。

■ご自宅や職場などがどのエリアに属するのかは [\[6～7ページ\]](#) を参照ください。

## Q3 扶桑町で生じるおそれのある浸水にはどのような特徴があるのですか？

「木曾川の洪水による浸水」や「新郷瀬川の洪水による浸水」は“外水はん濫”と呼ばれます。“外水はん濫”と“内水はん濫”とは、「発生のしかた」や「浸水エリア」はもとより、「流れる水の速さ」の特徴が大きく異なります。扶桑町では特に、木曾川堤防が決壊したり溢れたりした箇所付近では流速がとても早くなることが想定されることから、家屋倒壊の危険も心配されます。

■内水はん濫と外水はん濫の違いについては [\[8～9ページ\]](#) を参照ください。

## Q4 水害時に私は自宅外へ避難すべきでしょうか？

住居の位置や構造、さらには浸水が既に生じている状況なのか否かによって、冷静に判断する必要があります。浸水の中を避難することは非常に危険ですので、浸水してからの自宅滞在が困難な地域の場合は、浸水前の早めの避難が重要です。一方、浸水してからも安全に自宅滞在が可能な場合は、浸水してからは無理に避難しようとはせずに、自宅に待機しましょう。

■水害時の避難の判断の目安については [\[10～11ページ\]](#) を参照ください。

## Q5 アパート・マンションの中高層階に住んでいるので自宅外へは避難しないつもりですが、何か備えをしておいた方がよいのでしょうか？

ご自宅の住居スペースが浸水しなくても、電気・ガス・水道などのライフラインが停止したり、トイレやエレベーターが使用できなくなるなどの支障が考えられ、場合によっては長期化することも考えられますので、十分な備えをしておくことと安心です。

■自宅に滞在する際の心得については [\[14～15ページ\]](#) を参照ください。

## Q6 自宅外へ避難するとき、何に注意すべきでしょうか？

浸水してからの自宅外への避難は危険ですので止めましょう。浸水してからの自宅滞在が危険なエリアの場合は、浸水前の早めの避難が重要です。普段から非常持ち出し品の準備をしておくことや、避難先・避難ルートを確認しておくことも重要です。

■自宅外への避難の際の心得については [\[12～13ページ\]](#) を参照ください。

## Q7 災害情報は必ず伝わってくるのでしょうか？

洪水災害の危険が高まった際には、様々な場所で様々な情報が発信されています。しかし、これらの災害情報が伝わって来るのをただ待つだけでは、重要な情報を逃してしまうおそれがあります。豪雨時には自ら情報に注意するよう心がけましょう。町では防災行政無線の戸別受信機を無料で貸与していますので、こちらも活用ください。なお、お住まいのエリアによって注意すべき情報は異なります。

■どのような情報に注意すべきなのかは [\[16～17ページ\]](#) を参照ください。

■災害情報の入手方法については [\[18～19ページ\]](#) を参照ください。

## Q8 避難勧告が発表されてから避難すればよいのでしょうか？

水害時に自宅外避難が重要となる住居では、避難勧告や避難指示が発表された場合には少なくとも、迅速な避難が必要なことは言うまでもありません。しかし、避難勧告や避難指示は、どんな場合にも必ず発表されるとは限りませんし、たとえ発表されたとしても、すぐにその情報があなたのもとへ届く保証はありません。豪雨の情報や河川水位の情報などをもとに、早めの自主的な行動が重要です。もしも何も起こらなかったとしても、“何も起こらなくて良かった”と思えることが大事です。

■避難の必要性の判断に役立つ情報の入手については [\[16～19ページ\]](#) を参照ください。

■水害時の避難の必要性については [\[10～11ページ\]](#) を参照ください。

## Q9 必ず役場指定の避難所へ避難しなければならないのでしょうか？

避難先は必ずしも役場が準備した避難所である必要はありません。親戚宅、知人宅、職場なども避難先の選択肢になり得ます。また、安全に自宅滞在が可能なエリアの場合は、必ずしも自宅外へ避難しなければならないわけではありません。

■自宅外避難の際の心得については [\[12～13ページ\]](#) を参照ください。

■水害時の避難の必要性については [\[10～11ページ\]](#) を参照ください。

## Q10 自力での避難が困難な人がいて、すぐに避難ができません。どうしたらよいのでしょうか？

避難にはより多くの時間を要する可能性が高いので、より早めの行動が重要です。いざというときの対応について普段からご家族やご近所と相談しておくことが重要です。また、避難には援助が必要となりそうだとすることを本人が自覚していないケースも多々見受けられます。これらのことについて、互いに声を掛け合うようなコミュニティづくりも重要です。

■地域での共助の重要性については [\[19ページ\]](#) を参照ください。

## Q11 ペットも避難させたいのですが、どうしたらよいのでしょうか？

水害時に開設される役場指定の避難所では、不特定多数の人々が一定期間滞在することとなります。このような場所では、ペットの苦手な人やアレルギーをお持ちの人なども滞在するほか、糞尿などの衛生面での問題も考えられます。ペットを避難させる際には、不特定多数の人々が長期滞在する場所は避けるように心がけましょう。

■自宅外避難の際の心得については [\[12～13ページ\]](#) を参照ください。

## Q12 勤務先や外出先からの帰宅の際は、どんな事に注意をすべきでしょうか？

鉄道や道路が多く箇所で通行不能となり、「いつもの交通手段」や「いつものルート」が利用できなくなる可能性が高まりますので、帰宅の際は早めの行動が重要です。なお、場合によっては、無理に帰宅するよりも、勤務先や外出先にとどまる方が安全なこともあります。

■水害時の避難の判断の目安については [\[10～11ページ\]](#) を参照ください。

■自宅外避難の際の心得については [\[12～13ページ\]](#) を参照ください。